

1 総 括

1-1 業務の概要

近年の技術革新の進展や著しい技術の先端化に伴い、公設試験研究機関においては研究開発、技術指導の高度化が益々強く要請されている。このため地域産業の「技術的拠りどころ」としての機能を果たしていくためには、生産・加工システム、地域資源の高度利用、新素材・新材料、バイオ・食品、デザイン及び電子などの研究開発が不可欠であり、これらの研究開発を推進することによって、技術水準の高度化を促進し、地域資源や開発した技術の活用による新製品・新商品の開発を行い、新たな産業興しを図る必要がある。

業務の概要としては、県内中小企業を主対象とする技術相談・指導業務、依頼分析・試験業務及び工業技術に資する研究開発業務を主要業務とする外、JOIS、PATOLISなど技術情報データベースのオンライン検索による情報提供、センター独自のシステムである全国工業系国・公設試験研究機関の研究報告をデータベース化した研究報告サービスシステム「メビウス」による情報提供等、地域企業への情報提供業務の強化に努めている。また、平成8年8月に開設したインターネットのホームページを活用して積極的に情報発信を行っている。

今年度は工業技術センターが創立10周年を迎えたことから、11月に技術立県会議を開催し、12月には10周年記念誌を発刊した。

また、12月には地域の産学官が連携して研究開発を行う場として「鹿児島県システム技術開発センター」が開所した。

1-2 組織と業務

庶 務 部

- (1) 庶務一般に関すること。
- (2) 他部の所管に属しないこと。

企画情報部

- (1) 試験研究及び技術指導の企画及び総合調整に関すること。
- (2) 工業技術に関する情報の調査研究及び提供に関すること。
- (3) 国、地方公共団体、大学、企業等との連絡調整に関すること。

デザイン・工芸部

- (1) 工業製品及び工芸品に関するデザインの開発研究、調査及び技術指導に関すること。
- (2) 工芸品の試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (3) 工業製品及び工芸品に関し、依頼に応じて行うデザイン設計に関すること。

食品工業部

- (1) 食品工業の試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (2) 微生物の育種・開発及び食品工業的利用に関する試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (3) 食品に関し、依頼に応じて行う分析及び試験に関すること。

化 学 部

- (1) 化学工業の試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (2) 繊維及び染色に関する試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (3) 化学に関し、依頼に応じて行う分析、試験及び加工に関すること。

素材開発部

- (1) 窯業及び金属工業の試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (2) 新素材及び複合材料の試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (3) 窯業及び金属に関し、依頼に応じて行う分析、試験及び加工に関すること。

機械技術部

- (1) 機械工業の試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (2) 機械に関し、依頼に応じて行う分析、試験及び検査測定に関すること。

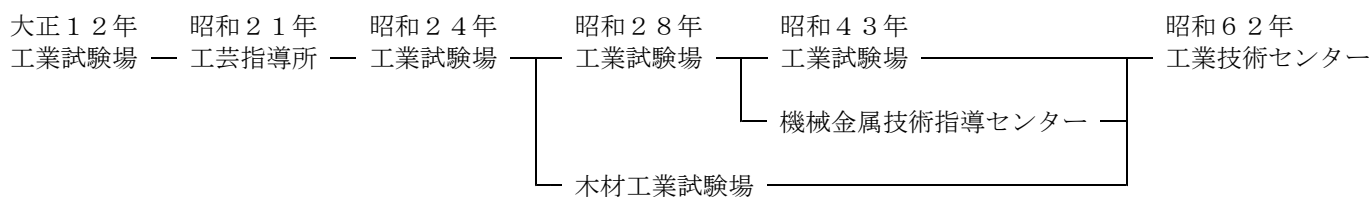
電 子 部

- (1) 電子技術に関する試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (2) 情報処理技術及び通信技術の試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (3) 電子機器に関し、依頼に応じて行う試験及び検査測定に関すること。

木材工業部

- (1) 木材工業の試験研究、調査及び技術指導に関すること。
- (2) 木材に関し、依頼に応じて行う分析、試験及び加工に関すること。

1 - 3 沿 革

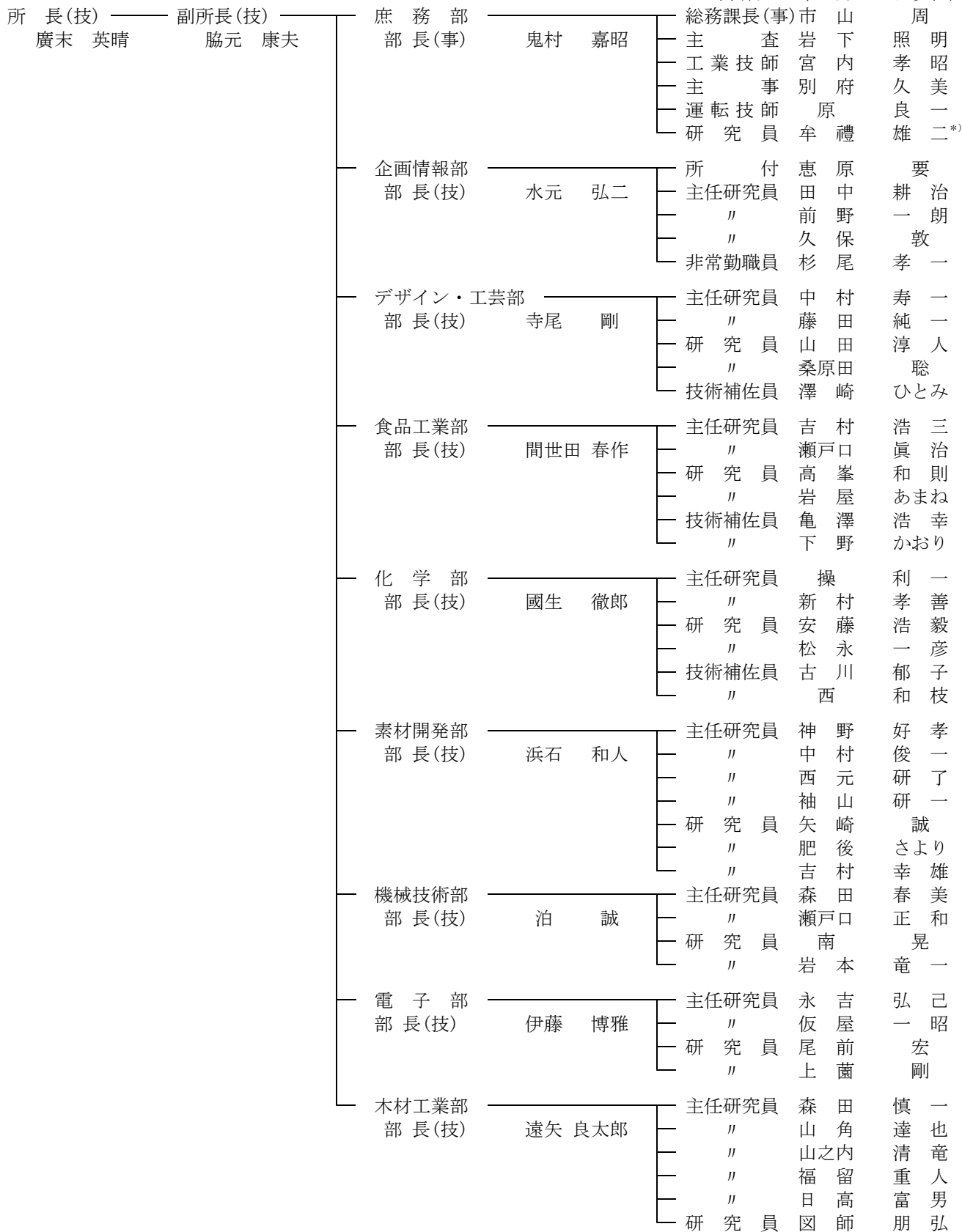


- 大正12年 4月 鹿児島市高麗町に工業試験場を設立し、染色、機織の2部を設置
- 昭和 4年 6月 鹿児島市原良町に移転
原料糸検査、醸造、玉糸製紙、撚糸、図案の各部を増設
- 昭和15年 4月 窯業部を増設
- 昭和17年 1月 木工、化学部を増設
- 昭和21年 4月 工業試験場に木工養成所を併設
- 昭和21年12月 工芸指導所と改称し、庶務、化学、窯業及び工芸振興の4部に改編
- 昭和23年 1月 竹工部を増設
- 昭和24年 4月 工業試験場と改称し、庶務、化学、及び工芸（木工、竹工、窯業）に改編
- 昭和26年 4月 発酵工業部を新設
- 昭和27年 4月 工芸部より木竹工部を分離・新設、揖宿市に揖宿分場を設置
- 昭和28年 4月 木竹工部と木工養成所を工業試験場より分離して木材工業試験場を設置
- 昭和34年11月 鹿児島市武町に移転
- 昭和38年 6月 揖宿分場を廃止
- 昭和39年 4月 工芸部を窯業部に改め、化学部に機械金属班を設置
- 昭和43年 2月 工業試験場の新庁舎竣工
- 昭和43年 8月 機械金属班を分離して鹿児島市宇宿町に機械金属技術指導センターを設立
- 昭和48年 3月 鹿児島市東開町に木材工業試験場を移転
- 昭和62年12月 工業試験場、機械金属技術指導センター及び木材工業試験場を再編・統合し、現住所に工業技術センターを設立、企画情報、デザイン開発、電子の2室1部を新設し、2室7部に改編
- 平成 8年 4月 組織改編により9部制発足
- 平成 9年 3月 鹿児島県知的所有権センター開所
- 平成 9年12月 鹿児島県システム技術開発センター開所

1 - 4 機 構

1 - 4 - 1 組織と職員配置

(平成10年3月31日現在)



*) 鹿児島頭脳センターへ出向

1 - 4 - 2 職員現況表

(平成10年3月31日現在)

区 分	事務職	技術職	現業職	計	非常勤職員	備 考
庶務部	4	4	1	9		所長・副所長を含む
企画情報部		5		5	1	
デザイン工芸部		5	1	6		
食品工業部		5	2	7		
化学部		5	2	7		
素材開発部		8		8		
機械技術部		5		5		
電子部		5		5		
木材工業部		7		7		
計	4	49	6	59	1	

1 - 4 - 3 人事異動

(平成9年4月1日～平成10年3月31日)

発令年月日	氏 名	旧 任	新 任	備 考
H 9. 4. 1	滝下 隼人	デザイン・工芸部長	大島紬技術指導センター館長	転 出
	上原 守峰	企画情報部主任研究員	大島紬技術指導センター	
	窪 美穂	庶務部主事	加治木総務事務所	
	脇元 康夫	商工労働部工業振興課参事	副所長	転 入
	恵原 要	大島紬技術指導センター デザイン研究室長	企画情報部 所付	
	水元 弘二	食品工業部長	企画情報部長	部内異動
	間世田春作	食品工業部主任研究員	食品工業部長	
	寺尾 剛	デザイン・工芸部主任研究員	デザイン・工芸部長	
	桑原田 聡		デザイン・工芸部研究員	
	吉村 幸雄		素材開発部研究員	新規採用
H 9. 10. 1	桑原田 聡	デザイン・工芸部研究員	九州工業技術研究所	転 出
H10. 3. 31	鬼村 嘉昭	庶務部長		退 職

1-5 規 模

1-5-1 土地・建物

土地面積 69,157.16 m²
 建物延べ面積 16,258.41 m²

区 分	面 積 (単位 m ²)	内 訳			
		階別	面積 (単位 m ²)	備 考	
管 理 研 究 棟 鉄筋コンクリート造 地 下 1階 地 上 3階	9,468.53	地階	911.49	機械室, 中央監視盤室 他	
		1階	2,884.14	庶務部, 企画情報部, 会議室 研究員室, ショールーム 知的所有権センター 他	
		2階	3,097.77	電子計算機室, 化学部 デザイン・工芸部, 電子部 素材開発部, 食品工業部	
		3階	2,219.06	デザイン・工芸部, 化学部 機械技術部 木材工業部, 素材開発部	
		棟屋	356.07	機械室	
実 験 棟 鉄 骨 造 平 屋 建	食品・化学実験棟	656.10	1階	656.10	食品工業部, 化学部
	窯業実験棟	951.35	1階	951.35	デザイン・工芸部, 素材開発部
	機械金属実験棟	1,640.25	1階	1,640.25	機械金属部
	木材工業実験棟	1,541.84	1階	1,541.84	木材工業部, 素材開発部 デザイン・工芸部
システム技術開発センター 木造(一部鉄筋コンクリート造) 平屋建	1,058.51	1階	1,058.51	産学官共同研究室 実験シミュレーション室 制御測定室, 試作研究室	
そ の 他 付 属 棟	941.83			941.83	浄化槽機械室, 車庫 他

1-5-2 配 置 図

1-6 決算

1-6-1 歳入

(単位：円)

款	項	目	収 入 額	備 考
使用料及び手数料	使 用 料	商 工 使 用 料	961,190	
	手 数 料	商 工 手 数 料	5,906,784	
財 産 収 入	財 産 売 払 収 入	生 産 物 売 払 収 入	272,000	
諸 収 入	県 預 金 利 子	県 預 金 利 子	8	
	雑 入	雑 入	5,484,182	
合 計			12,624,164	

1-6-2 歳出

(単位：円)

款	項	目	支 出 額	備 考
総 務 費	総 務 管 理 費	人 事 管 理 費	6,063,422	人事課
		国 際 交 流 促 進 費	417,800	国際交流課
	企 画 費	技 術 情 報 管 理 費	85,071	新技術情報課
農 林 水 産 業 費	農 業 費	農 業 振 興 費	369,597	流通園芸課
	林 業 費	林 業 振 興 指 導 費	1,941,162	林業振興課
商 工 費	工 鉱 業 費	工 業 振 興 費	434,285	工業振興課
		中 小 企 業 振 興 費	2,302,783	工業振興課, 中小企業課
		工 業 試 験 場 費	583,825,181	工業振興課
教 育 費	社 会 教 育 費	社 会 教 育 総 務 費	295,192	工業振興課
合 計			595,734,493	(人件費を含まず)

1-6-3 補助事業等

補助事業の区分	補助事業等の名称	事業名	事業費 (千円)	補助率	補助額 (千円)	交付決定 年月日	備考
国庫補助	新需要創出のための生物機能開発・利用技術の開発に関する研究	高色素甘しょを利用した糖化及び発酵飲料の開発	1,751	1/1	1,751	9. 8. 1	受託研究
〃	地域先導研究	糖質資源からの有用糖類の生産	5,448	1/1	5,448	9.10. 7	受託研究
〃	地域技術活性化事業費補助金	地域産学官共同研究事業 強誘電体インテリジェント材料の研究開発	36,900	1/2	18,450	9. 4.24	
日自振補助	自転車等機械工業振興補助金	工業技術センター機器整備事業	40,184	1/2	20,090	9. 5.21	
合 計			84,283		45,739		

1-7 会議等への参加（件数）

項目	部	庶務部	企画情報部	デザイン・工芸部	食品工業部	化学部	素材開発部	機械技術部	電子部	木材工業部	合計
試験研究機関連絡会議		7	6	5	10	8	11	7	4	3	61
学会		1	0	0	7	9	5	6	1	4	33
研究会・講習会		11	13	4	25	35	18	26	19	20	171
その他		40	43	29	16	10	7	17	10	25	197

1-8 設 備

平成9年度に設備した機器（重要物品）は、以下のとおりである。

部 名	機 器 名	型 式	メ ー カ ー 名	備 考
企画情報部	電子ファイルシステム	Express5800/150Dpro	日本電気(株)	賃貸借
食品工業部	温度勾配培養装置	TC-100-3AD	日本医化機械製作所	国 補
化学部	イオンクロマトアナライザ	DX-500	日本ダイオネクス(株)	
素材開発部	スパッタリング装置	SBH-3000	アルバック九州(株)	国 補
	クリーンボックス	SGV-80V	(株)井内盛栄堂	国 補
	アニール炉	UEM-120Z	群馬ウシオ電機(株)	国 補
	微粒子表面改質装置	NHS-1	(株)奈良機械製作所	国 補
機械技術部	工業用X線装置	MG226/4.5	日本フィリップス(株)	日自振補
	万能混合攪拌機	5DMV-r	ダルトン(株)	日自振補
	直立ボール盤	YD3-94CTN	(株)森精機製作所	日自振補
	金属粉末射出成形機	80MSIII-2.5E	三菱重工(株)	日自振補
	コントレーサ	CV638	(株)ミットヨ	日自振補
	高速マシニングセンタ	VT3A	三井精機(株)	国 補
電子部	電源高調波電流測定システム	SHC-2401	(株)高砂製作所	
	コンピュータネットワークシステム	EXPRESS5800/130Dpro	日本電気(株)	賃貸借
	CADシステム	CR5000	(株)図研	賃貸借
木材工業部	環境試験装置	TBR-4HW4S2A	タバイエスペック(株)	国 補

(注) 国 補 - 国の補助を受けて購入したもの
 日自振補 - 日本自転車振興会の補助を受けて購入したもの

